

重点項目についての環境配慮概要				内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。							
“ストップ温暖化しずおか行動計画”の推進(Gloval Warming)							
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策)/④部品・部材の耐用年数 ① 熱負荷の抑制(外壁:内断熱、屋根:外断熱仕様、窓:複層ガラス) ④ 更新間隔の長い建材を使用する。	Q-1	2	2.1	2.1.3	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
				3.2	3.2.2	③	昼光制御
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
				2.2.2		④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
				2.2.3		④	配管・配線材の更新必要間隔
				2.2.4		④	主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤ 緑地による緑あふれる景観 ⑥ 緑地による暑熱環境の緩和	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦ 熱負荷の抑制(外壁:内断熱、屋根:外断熱仕様、窓:複層ガラス) ⑨ 設備システムの高効率化 LED照明器具の採用等(ERR18.8%)	LR-1	1			⑦	建物の熱負荷抑制
			2	2.1		⑧	自然エネルギー直接利用
				2.2		⑧	自然エネルギー変換利用
			3			⑨	設備システムの高効率化
			4	4.1		⑩	モニタリング
				4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫低環境負荷材) ⑪ 節水型便器、水栓の使用 ⑫ GL工法により、躯体と下地の分別が容易 ⑫ ノンフロン断熱材を使用する	LR-2	1	1.1		⑪	節水
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム
					1.2.2	⑪	雑排水利用システム
		2	2.1	2.1.1		⑫	躯体材料の再利用効率
				2.1.2		⑫	非構造材料の再利用効率
				2.2		⑫	持続可能な森林から産出された木材
				2.3		⑫	有害物質を含まない材料
				2.4		⑫	既存建築躯体などの再利用
				2.5		⑫	部材の再利用可能性
			2.6	2.6.1		⑫	消火剤
				2.6.2		⑫	断熱材
				2.6.3		⑫	冷媒
	■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善) ⑬ 緑化による舗装面積の抑制	LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)							
	■サービス性能対策 (⑭耐震・免震/⑮信頼性) ⑭地域係数Z=1.2、用途係数I=1.25 ⑮ 節水型器具の使用、排水系統の配管の区分化 ⑮ 自家発電機の設置、浸水の危険無し ⑮ 設備耐震Aクラス ⑮ PHS網有、浸水の危険無し	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑭	耐震性
					2.1.2	⑭	免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑮	空調・換気設備
					2.4.2	⑮	給排水・衛生設備
					2.4.3	⑮	電気設備
					2.4.4	⑮	機械・配管支持方法
					2.4.5	⑮	通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)							
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑯ 平均階高:4.00m ⑯ 壁長さ比率:0.19、0.21	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑰	ユニバーサルデザイン計画
			3	3.1	3.1.1	⑯	階高のゆとり
					3.1.2	⑯	空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲ 緑地による暑熱環境の緩和	Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)							
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤ 緑地による緑あふれる景観 ⑥ 緑地による暑熱環境の緩和	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出
			2			⑥	まちなみ景観への配慮
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善) ⑬ 緑化による舗装面積の抑制	LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善